

焼岳の火山活動解説資料（平成 20 年 6 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動状況

・噴気など表面現象の状況（図 2、図 3、図 4、図 5）

7 日に実施した赤外熱映像観測¹⁾では、前回（2003 年 7 月 26 日）と比べ、北峰南側及び東側斜面の地表面温度分布等に特段の変化はありませんでした。

6 日から 9 日にかけて実施した現地調査では、山頂北峰及び南西斜面（岩坪谷）の噴気活動は、前回（2007 年 10 月 31 日、国土交通省北陸地方整備局の協力による上空からの観測）と比べ特段の変化は見られませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 6 ※）

山頂付近の浅い所を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

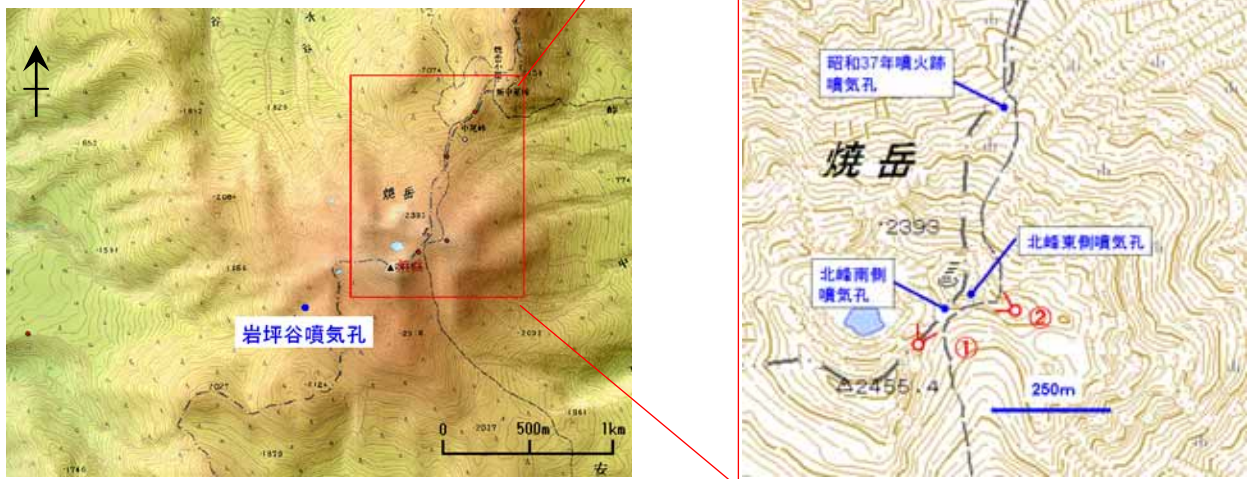


図 1 焼岳 噴気孔の位置および赤外熱映像撮影位置

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 7 月分）は平成 20 年 8 月 8 日に発表する予定です。
※この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

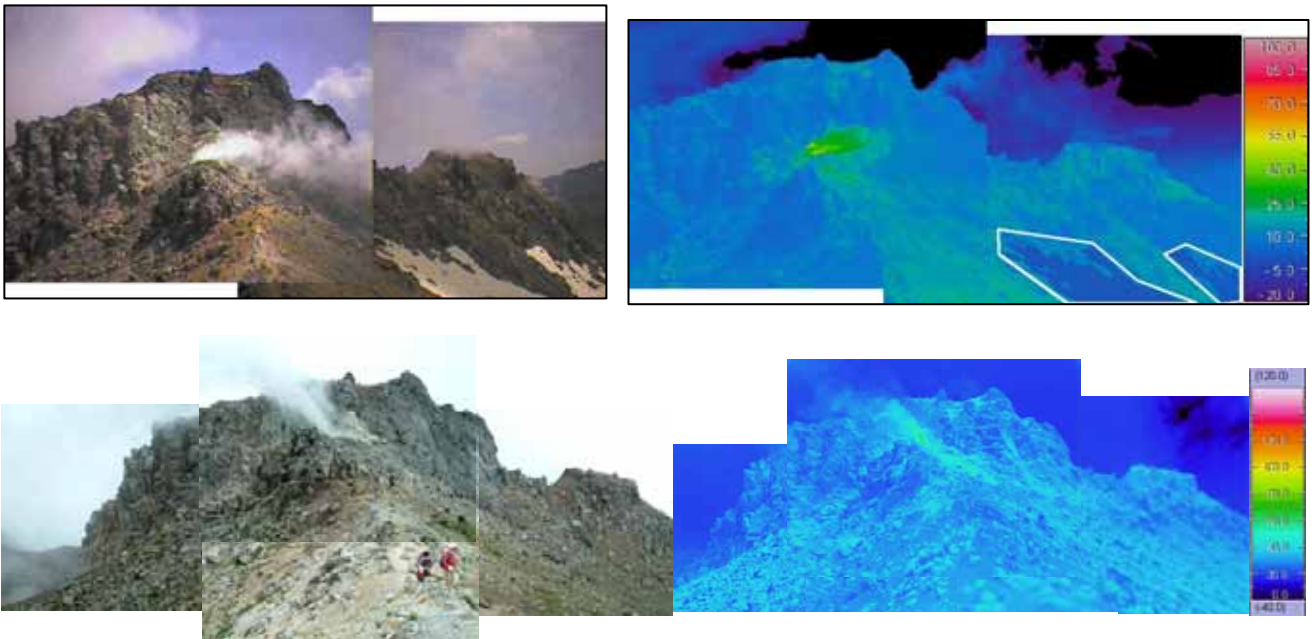


図2 焼岳 北峰南側斜面の地表面温度分布（撮影地点 図1の①）
（上：2008年6月7日撮影、下：2003年7月26日撮影、白枠内は残雪）

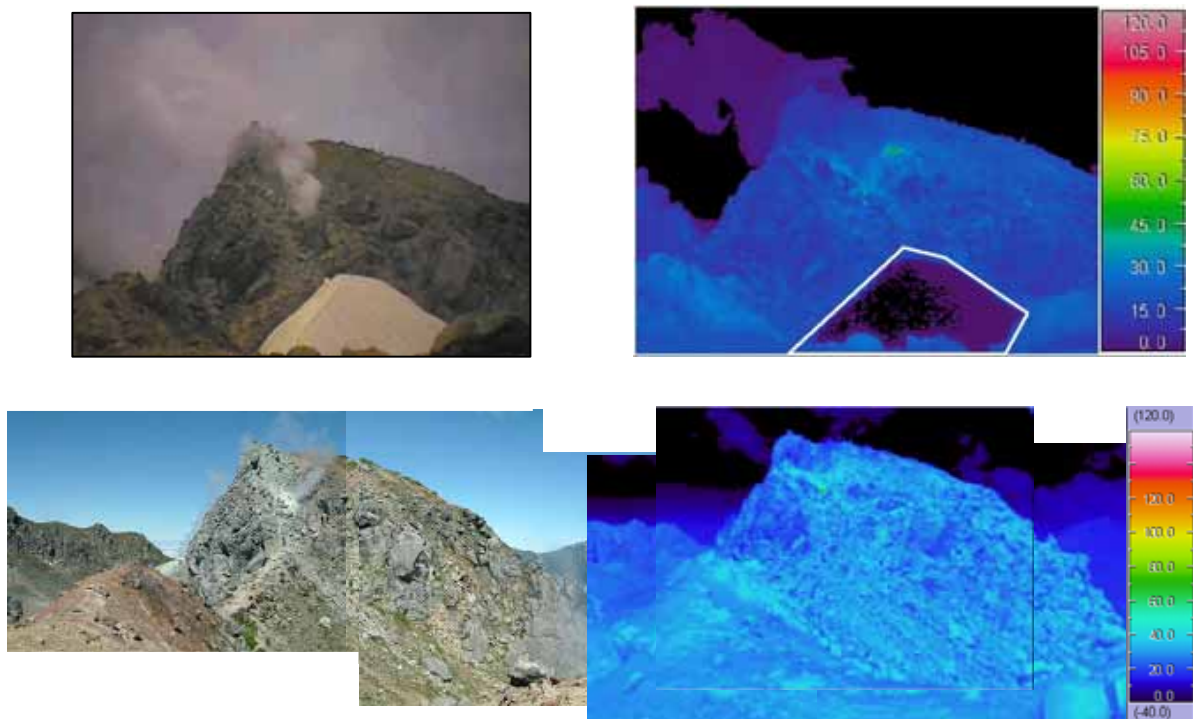


図3 焼岳 北峰東側斜面の地表面温度分布（撮影地点 図1の②）
（上：2008年6月7日撮影、下：2003年7月26日撮影、白枠内は残雪）



（2007 年 10 月 31 日、東側上空より撮影）



（2008 年 6 月 8 日、撮影地点 図 1 の②）

図 4 焼岳 山頂北峰の噴気の状態



（2007 年 10 月 31 日、南西上空より撮影）



（2008 年 6 月 8 日、西南西約 2 km の地点より撮影）

図 5 焼岳 南西斜面の噴気（岩坪谷噴気孔）の状態

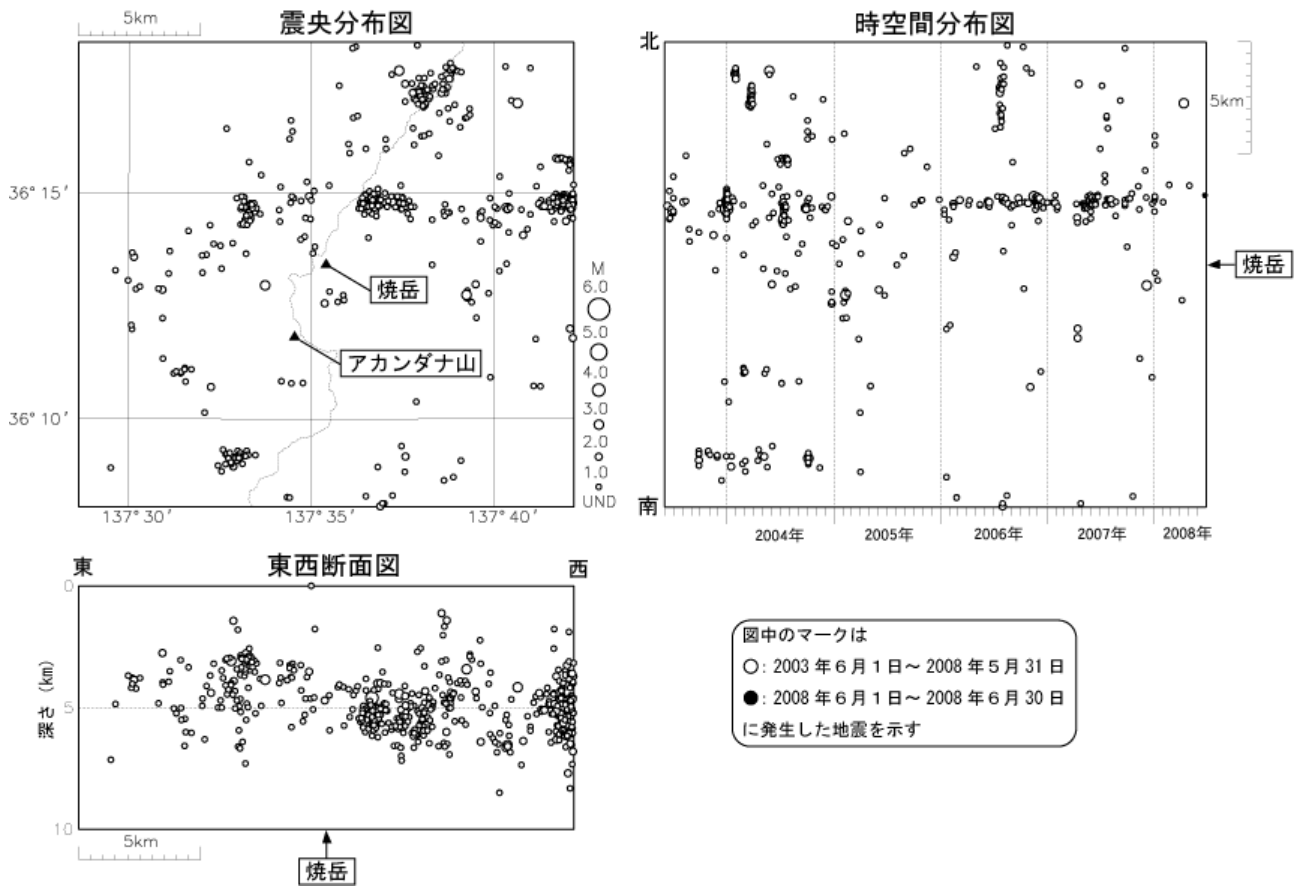


図 6 ※ 焼岳 山体及びその周辺の地震活動（2003 年 6 月 1 日～2008 年 6 月 30 日）
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。